

川平保護水面管理事業調査（要約）*

村越正慶・杉山昭博・下池和幸**

本調査結果は「昭和61年度川平保護水面調査報告書」（沖水試資料No.99）で報告したので要約にとどめる。

昭和61年度はヒメジャコの生殖巣部重量、成長量、そして放流の各調査を行なった。種苗生産はヒメジャコを中心にヒレジャコ、シャゴウ、シラナミについても検討を加えた。また粒度組成と底生生物及び水質等環境調査は例年と同様に行なった。

(1) ヒメジャコの生殖巣部重量調査は5月から8月まで実施した。生殖巣部重量比率（GWR）は5月より6月が少し減少し、7月は $41.2 \pm 4.9\%$ と上昇したが、8月には $21.9 \pm 9.3\%$ と大きく下降した。今年度は成熟が遅く、かつ産卵期の短い変動的な年であった。

(2) ヒメジャコの成長量調査は、定点の6個体の穿穴長径値を継続測定した。前年度 $8.50 \sim 10.30 \text{ cm}$ ($\bar{x} = 9.48 \pm 0.58 \text{ cm}$) のものが $8.60 \sim 10.45 \text{ cm}$ ($\bar{x} = 9.69 \pm 0.60 \text{ cm}$) となり、1年間の平均成長量は 0.21 cm であった。昨年度のそれは 0.41 cm であった。

(3) 1980年に埋め込み法で放流した区では昨年度と比較して生残数は変動がなかった。成長は 8 cm を越える個体が多くなってきたが、干出時間の長い場所や琉球石灰岩では悪かった。1年間の平均成長量は 0.59 cm であり、昨年度の 0.80 cm に比べて低くなった。

(4) シャコガイの種苗生産に関する試験は、ヒメジャコについては6月20日から9月8日までの間に7回の採卵を行ない、生産された 1 mm 稚貝は 94×10^3 個体であった。中間育成では6月29日に採卵した区で受精後105日目の10月13日に 4 mm 稚貝が出現した。ヒレジャコ、シャゴウ、シラナミは三種共7～8月にかけてのGWRが低く、採卵が不可能であった。

(5) 底生生物調査は8月29日に区域内水路部5地点で行なった。また同一地点で粒度組成と塩酸処理後の残留率についても調査した。結果は前回（1985年）の同地点でのそれとおおまかにはほぼ同傾向であった。

(5) 水質等環境調査は保護水面区域内で下記の項目について実施した。

水温、比重、天気率、風向、栄養塩類等の水質、クロロフィル量及び透明度。

水温の年平均は 25.0°C で、昨年は 25.1°C であった。他の項目は例年に比較してそれ程大きな差異はなかった。

*：水産資源保護対策事業

**：非常勤職員